

令和4年度

食品ロス及びプラスチックごみ削減に向けた取り組み
に関する協定の実施状況

令和5年6月

磐田市 ごみ対策課

目次

1	協定の趣旨	1
2	令和4年度の主な取組み	2
3	協定賛同事業所・店舗一覧(令和5年3月末現在)	4
4	事業所アンケート結果	
	(1)協定に関する全体的なことについて	5
	(2)食品ロス削減	8
	(3)プラごみ削減	11
5	参考(効果)	13
	(1)レジ袋	
	(2)食品ロス	

磐田市における食品ロス及びプラスチックごみの削減に向けた取組みに関する協定

協定賛同事業所、いわた消費者協会及び磐田市は、循環型社会の形成を目指し、ごみ減量化、二酸化炭素の削減、石油資源の節減を推進するため、これまで取組んできた「レジ袋削減に向けた取組み」が一定の成果をあげたことから、新たな展開として、それぞれの立場で相互に協力・連携して以下のとおり食品ロス及びプラスチックごみの削減に取り組めます。

- 1 協定賛同事業所は、食品ロス及びプラスチックごみの削減に取り組むとともに、取り組み状況等を磐田市へ報告します。
- 2 いわた消費者協会は、食品ロス及びプラスチックごみの削減を広く市民に呼びかけるとともに、協定賛同店が実施する食品ロス及びプラスチックごみの削減に向けた取組みが広く市民に認知されるよう積極的に支援します。
- 3 磐田市は、協定賛同事業所が行う食品ロス及びプラスチックごみの削減に向けた取組みについて、営業において不利にならないよう効果的なPRなどの支援を行うとともに、効果や課題を調査し公表します。
- 4 この協定に定める事項を変更しようとするとき、この協定に定めのない事項で必要が生じたとき、又はこの協定に関し疑義が生じたときは、協定締結当事者間で協議の上、定めるものとします。

令和3年6月30日

1 協定の趣旨

近年、プラスチックごみが河川等を通じて内陸から海へ流れ込み、生態系を含めた環境の悪化をもたらすなど大きな課題となっています。また、毎日の食事の確保も難しい人々がいる一方で、食料が大量に廃棄されている現実があります。

国ではこれらの課題の解決を目指し、資源を有効に活用し、環境を保全するため、「食品ロスの削減の推進に関する法律」や「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が制定されたところです。

本市では、10年程前からレジ袋の排出抑制を進めるため、いわた消費者協会、市内スーパーなど15社33店舗と「レジ袋削減に向けた取組みに関する協定」を締結し、レジ袋有料化やマイバッグ持参運動などの啓発を行ってきたこともあり、協力店でのレジ袋辞退率は9割を超えるなど成果を上げてきました。

また、令和3年6月14日には、活気あふれる社会環境を守り育てるとともに恵まれた自然環境を次世代に引き継ぐため、2050年までに二酸化炭素の排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を表明しました。

この協定をもとに、これまでの取組みを活かし、循環型社会の形成に向けて市民、事業者、団体、行政が互いに連携・協力し、食品ロス及びプラスチックごみ削減に向けた取組みを進めていくものです。

2 令和4年度の主な取組みについて

① 全体的な取組み

「食品ロス及びプラスチックごみの削減に向けた取組みに関する協定」を締結

令和4年9月13日に新たに3社（6店舗）と協定を締結し、協定賛同店が17社39店舗に拡大。

ゼロカーボンシティに向けた取組みの第一歩として、市民、事業者、消費者団体、磐田市が連携して、食品ロスやプラスチックごみの削減に取り組む。



②食品ロス削減に向けた取組み

「値引きシールを集めて食品ロス削減キャンペーン」を実施

30店舗で実施（令和4年10月30日から令和5年1月11日まで）
食品ロス削減の意識啓発を図るため、事業者及びいわた消費者協会と実施。応募数は約6,900通と好評、抽選で100名にエコグッズを贈呈。

食品ロス削減ポップ「手前から取ってもらえるとうれしっぺい」

協定賛同店 32店・セブンイレブン 28店へ配布し、店舗商品陳列棚に掲示。（令和4年10月1日から1月11日まで）



③10月の「3R推進月間」及び「食品ロス削減月間」に併せた普及啓発 展示コーナーの活用による啓発

3R（リデュース・リユース・リサイクル）と食品ロス削減を推進するため、市役所本庁舎やひと・ほんの庭にこっと、中央図書館展示コーナーで啓発展示を実施。

④プラスチックごみ削減に関する取組み

しっぺいの100%紙製ファイルによる啓発

ゼロカーボンシティの取組みの一環であるプラスチックごみ削減のため、100%紙製のクリアファイルを作成し、市民や事業所等に啓発。

プラスチック製品（ペットボトル、トレイ等）の回収店舗を

市ホームページで周知

市内29店舗で回収



⑤広報いわた、報道等での啓発

広報いわた

令和4年10月号 特集「もったいない 減らそう！食品ロス」

■参考：報道等一覧

1 磐田市議会だより(5/1)

5月号 特集「減らそう食品ロス」

2 中日新聞(8/10)

「オール磐田でゴミ減量 標語を募集」

3 広報いわた(10/19)

10月号特集「もったいない！減らそう食品ロス」

4 中日新聞(12/29)

「ゴミ減量 優秀標語 表彰です 磐田市」

5 静岡新聞(12/30)

「ゴミ減量標語を表彰 磐田市」

静岡産業大学冠講座「磐田市のごみの現状について」

静岡産業大学にてごみの出し方や食品ロス削減に関する冠講座を実施。

10月19日 参加者約40名

静岡県3R推進フォーラム「磐田市における食品ロス削減の取組み」

静岡県市民文化会館にて、磐田市における食品ロス削減の取組みに関する事例発表を実施。

10月21日 参加者約200名



10/19 静岡産業大学での発表の様子



10/21 静岡市民文化会館での発表の様子

協定賛同事業所・店舗一覧(令和5年3月末現在)

17事業所39店舗(50音順)

事業所名	店舗名
ウエルシア薬局株式会社	ウエルシア 磐田岩井店
	ウエルシア 磐田白羽店
	ウエルシア 磐田富丘店
	ウエルシア 磐田豊岡駅前店
遠州中央農業協同組合	磐田南部どっさり市
	ふくの市
	見付どっさり市
遠鉄アシスト株式会社	磐田市竜洋海洋公園 レストハウスしおさい竜洋
株式会社遠鉄ストア	遠鉄ストア 池田店
	遠鉄ストア 磐田店
	遠鉄ストア 見付店
	遠鉄ストア 竜洋店
株式会社クリエイトエス・ディー	クリエイトエス・ディー 磐田今之浦店
	クリエイトエス・ディー 磐田福田町店
株式会社ケーヨー	ケーヨーデイツー 豊田町店
株式会社ジェイエイ遠中サービス	Aコープ 豊田中央店
株式会社食鮮館タイヨー	食鮮館タイヨー 福田店
株式会社タカラ・エムシー	フードマーケット マム磐田南店
	フードマーケット マム竜洋店
株式会社とよおか採れたて元気むら	とよおか採れたて元気むら
株式会社浜松白洋舎	ジャブ 遠鉄ストア 池田店
	ジャブ 遠鉄ストア 見付店
	ジャブ 遠鉄ストア 竜洋店
	浜松白洋舎 今之浦店
	浜松白洋舎 貝塚店
	浜松白洋舎 北島店
	浜松白洋舎 豊田店
株式会社バロー	バロー 磐田店
株式会社ビッグ富士	エブリイビッグデー 磐田店
	エブリイビッグデー ららぼーと磐田店
株式会社ベイシア	ベイシア 磐田豊岡店
生活協同組合ユーコープ	生活協同組合ユーコープ 国府台店
マックスバリュ東海株式会社	マックスバリュ 磐田中泉店
	マックスバリュ 磐田西貝塚店
	マックスバリュ 磐田見付店
	マックスバリュ 豊田店
	マックスバリュ 福田店
ユニー株式会社	アピタ 磐田店
	ピアゴ 上岡田店

4 協定賛同店アンケート集計結果

令和5年3月、協定賛同店17事業所(39店舗)を対象に、協定に基づくアンケート調査を実施。

(1) 協定に関する全体的なことについて

総回答数 16件

① 「食品ロス及びプラスチックごみの削減に向けた取組みに関する協定」に参加して

ア 大変良かった	3	(約19%)
イ 良かった	11	(約69%)
ウ 良くなかった	0	(0%)
エ まったく良くなかった	1	(6%)

■主なコメント

大変良かったと回答した事業所

- ・プラスチック、ストロー等の削減の従業員周知、お客様周知ができた。
- ・食品ロスやプラスチックごみの削減に対するお客様や店舗の意識向上にもつながっていると思う。市、企業、お客様と一体となって環境問題に取り組んでいることはとても素晴らしいと思う。

良かったと回答した事業所

- ・食品ロス、プラごみ削減に関し、市のみでなく事業者も一緒に情報発信することで、地域住民への良い啓発となったと考える。当組合にとっても協定に参加することで、イメージアップ効果があったと思う。
- ・地域のお客様とともに取り組むことを意識できた。行政協力の下取り組みをしていることが、よりお客様に伝わるようキャンペーンを継続してほしい。
- ・プラごみ、食品ロスに対する従業員の意識が高まり行動が変わってきた。
- ・環境、食品ロスへの消費者と共に進めることができた。

- ・当社としましても無駄なくお客様あて商品提供したいとの思いが強く、市全体の一社として参加できた。
- ・自治体、市民、事業者が連携して取り組みことが重要なため形式的な協定ではなく、啓発ツールの設置やキャンペーンの開催など具体的な取り組みを継続的に提案いただき感謝している。

② 協賛賛同店、磐田消費者協会、市担当課(ごみ対策課)による新たな情報共有の場としての情報交換会の実施について

ア ぜひ参加したい	3 (約19%)
イ 参加する見込なし	7 (約44%)
ウ どちらともいえない	6 (約37%)

ぜひ参加したいと回答した事業所

- ・各企業の取り組みをぜひ伺いながら弊社の取り組みの参考にもできればと思う。オンラインで開催いただけると参加しやすい。

参加する見込なしと回答した事業所

- ・人員調整が困難なため、参加は見送りとさせていただく。
- ・体制上アンケート参加等であれば可能かと感じる。
- ・大々的に集合しての意見交換会は不要。

どちらともいえないと回答した事業所

- ・情報交換の意義・目的により参加させていただくかどうか検討させてほしい。
- ・夏は最盛期で、時間がとれるか分からないので現時点では「わからない」とさせてもらう。
- ・可能な限り参加したいと思う。
- ・是非参加させてもらいたいが、現在弊社内では6月本決算に向けて組織改編を行っているため、夏場の状況に関してはまだ回答できない状況

③ 市民からの要望「びんの店頭回収」の今後の取組について

ア 実施したい	0	(0%)
イ 実施する見込なし	14	(約87%)
ウ 何か支援があれば検討する	2	(約13%)

実施する見込なしと回答した事業所

- ・家庭ごみの放置への危惧、回収場所の清掃員の確保困難。
- ・店舗スペースの制約上見送り。
- ・人員不足
- ・ニーズが高いことは承知しているが、スペース確保が難しい。
- ・やる場合は継続性が重要なので、各工程での支援も必要だと感じる。
- ・店舗オペレーションの都合上不可。自治体での回収継続希望。
- ・飲料自販機のカン・ペットボトルの資源削減・ゴミ削減を考慮して、館内自販機を1台、紙コップの飲料に更新した。
- ・すぐに実施というのは難しいが、いただいた声を参考に弊社内でも検討させてもらう。

何か支援があれば検討すると回答した事業所

- ・ビール瓶の買取を一部実施中。同様な回収業者様が買い取るような支援を希望。

(2) 食品ロス削減の取組み

回答数 食料品を扱う15事業所(31店舗)

項目	実施状況	各事業所の主な取組内容、効果
(1) 賞味期限間近な食料品の割引販売(食品ロス削減啓発ポップの掲示など)	26/31 (84%)	<ul style="list-style-type: none"> ・お菓子売り場等食品削減POPを取り付け商品ロス削減に努めた。前年と比較して約4割ロスの削減ができた。 ・値引きシールを貼付の上、消費期限間近の商品(惣菜・パン・野菜)を安く販売し、ロスを減らした。 ・啓発ポップ、ポスターの掲示。 ・お客様、スタッフ共に意識が向いた。 ・早めの割引を実施し、食品ロスの削減に取り組んだ。廃棄は減少した。 ・弁当・惣菜の割引販売 ・もともと取り組んでいる(だいぶ以前より)ことなので、お客様も分かっており、積極的に値引き品を購入いただいております。 ・値引き方法のマニュアル化、割引率の変更(「〇円引き」から「〇%引き」に変更)を実施した。 ・当日に売り切りが必要な商品については、商品の売れ行きや当日の気候(天気や気温)、お客様の動向・見通し、時間帯などを考慮しながら、商品の見切り販売を実施。その他加工品等についても賞味期限のチェックを行い期限内に売り切るようにしている。 ・期限間近の割引販売もシールデザイン一新して継続実施中。 ・賞味期限間近な加工食品には、割引シールを付け販売していてほとんど完売。 ・食品ロス啓発ポップ日配商品ケースに掲示。 ・ポップ掲示を実施したが効果不明。
(2) 値引きシールキャンペーンへの参加	25/31 (81%)	<ul style="list-style-type: none"> ・もともと値引きシールでの販売は行っているが、値引き商品に抵抗のあった消費者も取り込めるようになった。

		<ul style="list-style-type: none"> ・啓発パンフレットをサービスカウンターにて配布。 ・応募用紙の設置。 ・キャンペーンだから参加ではなく、日々値引きシール販売をしております。効果測定は弊社としては実施していない。 ・日配商品年間 24 万円廃棄削減。 ・通常時の値引きよりは食品ロスへの意識は高まったが効果は軽微である。 ・効果不明。 <p>割引になる前に消費者の手元に届く取り組み、行政のサポートが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・値引きシールはそもそも犯罪防止のためはがれないように(バラバラに切れる)になっており、キャンペーンに適さない。またシールをはがす行為、値引きしてない商品に貼る行為が何件か発生し、今後は見合わせたい。
(3) 期限切れ前商品のフードドライブへの寄付	2/31 (6%)	<ul style="list-style-type: none"> ・期限切れる前にすべて割引販売にて売り尽くし。 ・フードバンクふじのくににバナナ箱 5 箱を提供。
(4) ばら売り、量り売り、少量パック等による食料品販売、規格外品の割引	19/31 (61%)	(34%) ばら売り (46%) 少量パック (16%) 量り売り (4%) 規格外品の割引
(5) 期限切れ食品や調理くずの有効活用	9/31 (29%)	<ul style="list-style-type: none"> ・調理くずは業者経由で飼料へ。 ・魚のあらなどは飼料として回収。 ・生ゴミの再利用はお取引先様の許認可の関係もあり課題があるが、天かす・廃食用油に関しては有価にて扱い再利用を継続中。
(6) 利用客対象の啓発講座の開催	0/31 (0%)	
(7) 各店の広報誌、CM 等による啓発	4/31 (13%)	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌等による啓発 ・機関誌によるフードバンク等のお知らせ掲載 ・グループとしてホームページにて情報発信を実施。

<p>(8) その他各店独自の取組み</p>	<p>7/31 (23%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期限間近商品の購入促進 ・ 野菜や加工食品などは、出荷者に販売量を予測して、余りや売れ残りが無いように入荷量の調整をして頂いた。 ・ 在庫削減と回転日数の改善 ・ 廃棄商品の把握と適正発注 ・ 夜間の売り切り徹底 ・ 小容量品揃えの徹底
<p>(9) 上記(1)~(8)について今後、<u>新たに</u>取組む予定があれば記入して下さい。</p>	<p>2/31 (6%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ SDGs を勉強し取り組む ・ (3) 取組み検討中。他企業取組み実績で提供可能なものがあれば希望。

(3) プラスチックごみ削減の取組み

回答数 16事業所 (38店舗)

項目	実施状況	各事業所の主な取組内容、効果						
(1) プラスチック製品の回収へのポイント付与、店頭回収推進	8/38 (21%)	<ul style="list-style-type: none"> ・店頭回収場所の美化には気を付けて、利用しやすい環境維持を心掛けています。 ・店頭にペットボトルや食品トレーの回収ボックスを設置し、買い物時に持参いただける環境の整備 ・ペットボトル・食品トレー・アルミ、スチール缶、牛乳パック回収 ・什器設置。 ・トレイのみ回収 						
(2) マイバッグ持参の呼びかけ (レジ袋の削減) 【令和5年1月分のレジ袋辞退率】	38/38 (100%)	$\text{レジ袋辞退者数} / \text{レジ通過客数} \times 100 = \%$ <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="padding: 5px;">893,704</td> <td style="padding: 5px;">/</td> <td style="padding: 5px;">999,206</td> <td style="padding: 5px;">× 100 =</td> <td style="padding: 5px; border: 1px solid black;">89.4</td> <td style="padding: 5px;">%</td> </tr> </table>	893,704	/	999,206	× 100 =	89.4	%
893,704	/	999,206	× 100 =	89.4	%			
(3) 詰め替え商品の購入の呼びかけ	3/38 (8%)	<ul style="list-style-type: none"> ・レジ付近 POP 掲示 ・売り場での掲示 ・詰め替え商品を複数売り場で展開 						
(4) 環境に配慮した素材 (プラスチックに代わる素材) の積極的な活用	3/38 (8%)	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックから紙へと一部変更 ・レジ袋について植物由来のプラスチックを 25%、石灰石を 25%使用したレジ袋を新規に 2022 年 9 月に採用し CO2 削減に努めた。 ・デザートスプーンや有料レジ袋等を環境に配慮したものを活用。 						
(5) 包装の簡素化	12/38 (32%)	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易包装を推奨し、多重包装を少なくした。 ・プライベートブランドの飲料でラベルレスペットボトルの販売 ・詰め替え用商品の取扱い。 ・ギフトの簡易包装の継続取組。 ・ギフト品は簡易包装推進。 						
(6) 利用客対象の啓発講座の開催	0/38 (0%)							
(7) 各店の広報誌、CM 等による啓発	3/38 (8%)	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌による啓発 ・グループとしてホームページにて定期発信を行っている。 						

<p>(8) その他各店独自の取組み</p>	<p>11/38 (29%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・割りばし、プラスチックスプーン、ストローなどは基本お渡しなしで、申告があった時のみのお渡しにした。 ・プラスチック素材(スプーン、袋など)の有料化 ・プラスチックスプーンの有料化 ・新規会員様入会お礼にエコバック進呈
<p>(9) 上記(1)～(8)について今後、<u>新たに</u>取組む予定があれば記入してください。</p>	<p>2/38 (5%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs を勉強し取り組む ・(4)取組み検討中だが、紙・木素材など、別素材に変更する際のコストが懸念材料となっている。

5 参考（効果）

（１）レジ袋削減に向けた取組みの効果（推計）

取組内容：マイバッグ持参の呼びかけ（レジ袋の削減）

対象店舗：協定賛同店 17社（39店舗）

取組期間：通年

推計方法：令和5年1月（1か月間）の各店レジ袋辞退率を調査

- ・レジ袋辞退率 約90% = (約100万人 - 約10万人) / 約100万人
1か月の (店舗全体客数 - レジ袋購入客数) / 店舗全体客数
- ・レジ袋削減枚数 1か月で約90万枚 → 1年間換算で約1,080万枚
- ・レジ袋削減効果（見込み） レジ袋1枚当たり10グラムと仮定して計算

1年間で約108トンのレジ袋を削減（見込み）

（２）食品ロス削減に向けた取組みの効果（推計）

取組内容：値引きシールを集めて食品ロス削減キャンペーン

対象店舗：協定賛同店のうちキャンペーンに参加した食品取扱店 14社（30店舗）

取組期間：令和4年10月30日～令和5年1月11日（約2か月間）

推計方法：キャンペーン応募総数から値引きシールが貼られた商品の購入数を把握

- ・応募総数 約6,900通×値引きシール5枚 = 34,500商品
- ・食品ロス削減効果 1商品あたり500グラムと仮定して計算

2か月間で約17トンの食品ロスを削減（見込み）

廃棄物の発生を抑制し、循環型社会の形成へ

ゼロカーボンシティに向けた取組みの一環として、今後とも本協定に基づき食品ロス・プラスチックごみの削減に向けた取組みを進めていきますので、市民、事業者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

磐田市 環境水道部 ごみ対策課

〒438-0061 静岡県磐田市刑部島301

（磐田市クリーンセンター内）

TEL : 0538-37-4812 / FAX : 0538-36-9797

E-mail : gomi-taisaku@city.iwata.lg.jp